

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743

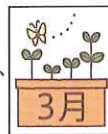


暖かかったり寒かったりしながらも、やっと寒気がゆるみ始めました。

いよいよ春を迎えて、心浮き立つ今日この頃ですが、皆さんは

如何お過ごしでしょうか？

3月には、樹木が芽吹き、花が咲き、心が弾みますが、卒業式や送別会など別れの季節でもあります。



仲良しの友達や同僚たちとの別れは寂しいものですが、反面、素敵な人たちとの新しい出会いに期待が膨らみますね。

公私共に何かとお忙しいこととは思いますが、体調管理をしっかりして、どうぞお元気でお過ごしください。

桜の開花ももうすぐです。

快適に生活をするために！(3)

住宅は他の商品と異なり、住まい方、手入れの仕方で寿命が長くも短くもなるものです。

いつまでも快適に暮らすための参考となるポイントについてお伝えしていきます。

今回は、屋根に関わるお話です。

【屋根・バルコニー】

アンテナ工事など、屋根に上る必要のある作業は、転落事故を引き起こしかねません。

大変危険ですので、必ず専門の業者に依頼して下さい。

【瓦葺き】

瓦は、軒先付近を重点的に釘止めされていますが、ズレが生じることがあります。

地震や台風の後などは、瓦の割れ・ズレ・剥がれなどを点検し、異常がある場合は専門の業者に補修を頼んで下さい。

【金属板屋根】

亜鉛鉄板など金属板屋根のサビを放置するとその寿命を著しく短くしますので、サビが出る前に塗装を行うことが大切です。



通常は、3年に一度位が目安ですが、住まいが海岸から近い所や工場地帯にある場合には、もう少し早い時期に塗り替えをする必要があります。

【コロニアル屋根】

コロニアルは、セメント基材とパルプ繊維の強固な結合で生み出された素材でできています。

補強用の超微粉末材により、強い粘りと耐久性が認められています。

他の屋根材より安価、工期が短い、施工が簡単、粘土瓦より軽量、カラーバリエーションが豊富、そして太陽光発電装置が設置可能です。

※TVアンテナなどを屋根に設置する場合は、屋根葺き材などにズレや破損を与えないように十分注意する必要があります。屋根葺き材は、集中して加えられた荷重や衝撃にそれほど強くはないので、不用意に体重を乗せかけたり、物を置いたりすると雨漏りなどの原因になることがあるのでご注意ください。

次回に続く

「春告げ魚」

日本各地には「春告げ魚」と呼ばれる魚たちがあります。例えば「鱒(さわら)」。魚へんに春と書くように瀬戸内海を中心に春に旬を迎え、春の訪れを知らせる魚です。

北国では、かつては「鯀(にしん)」でしたが、不漁のため、鯀に代わりメバルが春告げ魚と呼ばれるようになってきました。メバルは煮つけにすると最高に美味しいですね。

東海や関東では、脂ののった春鱒が人気。

関西では、春鱒が旬とされ、産卵のため沿岸に集まり漁獲された鱒の卵や白子も堪能します。

その他、兵庫県のイカナゴ、伊豆諸島の浜トビウオなども春告げ魚と呼ばれます。

地域や時代によっても春告げ魚は異なりますが、春先になるとピチピチと元気に集まってくる魚たちに、親しみを込めて【春告げ魚】と呼んだのかもしれない。



送別会の思い出



3 月は卒園・卒業、転勤など寂しい別れの季節かもしれません。

皆さんにも、そんな体験があるのではないのでしょうか？

今回は、他校へ転任することになった先生とのお別れ会での感動的な思い出を聞かせていただきましたので、ご披露させていただきます。

小学校の時、同じクラスに足し算・引き算がちょっと苦手で、会話のテンポが少し遅い A 君がいました。でも、彼は絵がとても上手な子でした。

彼は、よく空の絵を描いていましたが、抜けるような色遣いには、子供心に驚嘆したものです。

当時、担任だった N 先生は、算数の授業中、解けないと分かっているのに答えをその子に聞いた。

彼は、冷や汗をかきながらも、自分の指を使って、ええと、ええと・・・と答えを出そうとするのだが、周りの子供たちはその姿を見て笑った。

N 先生は、正解が出るまで、しつこく何度も何度も答えを言わせた。



ひどいよ！

私は、そんな N 先生が大嫌いだった。

その後クラスもいつしか替わり、私たちが小学 6 年生になる前、N 先生は違う学校へ転任することになったのです。

そこで、全校集会で先生のお別れ会をすることが決まりました。

その時に全校代表でお別れの言葉を言う人が必要になり、誰がするのかの話し合いの中、

「先生に一番世話をやかせたのだから、A 君が言えればいい」と言い出したおバカさんがいた。

その子は、お別れ会で一人立たされ緊張してどもる A 君の姿を期待したのです。

相談の結果、結局 A 君がすることに決まりましたが、私は、内心ハラハラ・ドキドキ・・・でも、当日の彼は一生懸命でした。

「水彩絵の具の色の使い方を教えてくれたこと」
「放課後つきっきりで、そろばんの勉強を教えてくれたこと」
「僕を、普通の子と一緒に勉強させてくれて本当にありがとうございました」



A 君の感謝の言葉は 10 分以上にも及ぶものでしたが、その間、お喋りをする子供は誰ひとりいませんでした。

ただ、N 先生がブルブル震えながら、嗚咽を食いしばる声が静かな体育館に響いただけでした。

すごいよ A 君！！

私は、A 君の言葉を決して忘れません。

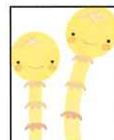


「編集後記」

3 月といえば、忘れられない「あの日」がまた巡ってきます。あれから 6 年目。大震災が襲ったとき誕生した赤ちゃんは、この春小学生になり、1 年生だった子供は小学校を卒業し中学校に進学、そして、社会人として希望に満ちたスタートを切るはずだった青年・・・複雑な思いで春を迎える方たちを思うと心が痛みます。あの時、誰もがみな口にした「絆」という言葉をもう一度思い出し、復興に向けささやかな力ながらも応援を続けていきたいと思います。未だ、被災地で心身共に不自由な暮らしを強いられている方々に、暖かい春の日差しがいっぱい届くことを願います。今月号もお読みいただき有難うございました。

※「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。



編集責任者

渡辺 田鶴子